

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



Vol.48



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」!

案内役は、国際交流員のアダム・ラビエールさんとジェニファー・ステイントンさんです。

Hi! アダムです。

人類は地球で生活をしている間、驚きと好奇心を持って月を見てきました。

今回はいまだ謎に包まれている月について紹介したいと思います。

現代人もずっと昔は、**月に頼って**生活していました。彼らは月明かりの下狩猟や釣りをし、誘導や土地の耕作のために月を利用しました。日にちや季節を数えるためにも月を利用しました。また、重要な文化的な祝賀会やパーティーそして儀式の時間を計るために月を利用しています。多くの文化にとって月はまた宗教的な信仰や風習において重要な役割を果たしました。今日わたしたちは数千年もの間人々が夢に見ていたもの、つまり月に関する答えを持っています。例えば月は何で作られているのか、大きさはどれくらいか、地球からどれくらい遠く離れているのか、どこからやって来たのか、生き物や空気そして水がそこにはあるのかなどです。人々が今までに月について尋ねても決して知ることができなかったいくつかの疑問の答えがここにあります。

月は地球から**約384,403キロメートル**離れたところにあり、毎年約3センチメートルずつゆっくりと離れながら漂っています。地球と比較した場合の月の大きさがちょうど良いので、月は地球の引力によって宇宙を漂い続けていられるのです。月もまた地球を引っ張る引力を持っていて、それが潮の干満の原因となっています。月は地球の約4分の1の大きさで27日に1回地球を1周します。これを太陰月といいます。同時に地球は約24時間に1回の周期で自転しています。潮の干満は海と月が互いに向き合う時に引き起こされます。月の引力が海を引っ張る時が干潮で、浜辺から引っ張られて月の方へ向かっていく水の原因となっています。海が月から離れて循環する時、水は地球へ戻って流れてきます。それが満潮です。月は地球のように自転していません。それゆえに月の同じ側面をいつも地球に向けています。人々が見ているその側面はニアサイド（近い側面）と呼ばれ、いつも地球から遠く離れて向いている側面はファーサイド（遠い側面）と呼ばれています。ニアサイドは大きな平

野と溶岩が固まってできた山々、とてもきめ細かい砂や噴火口から成り立っています。ファーサイドは小惑星や隕石が月の表面で衝突した時に作られたクレーターでいっぱいです。科学者は月には直径が1キロメートル以上のクレーターが約50万個もあると推定しています。月にあるもっとも大きなクレーターは、深さが約13キロメートルもあります。月には大気も風も雨も風化もないので、月の表面に作られたものは何でも数千年の間ほぼ完全に同じ状態で残っています。この



一つの例として1969年に宇宙飛行士が月面上陸した時に残した足跡があります。その足跡は30年以上前に彼らが残した時と今でも完全に同じように見えます。

いまだに**答えることができない**もっとも大きな疑問がここにあります。それは月はどういうように作られたかという疑問です。もっとも広く認められている学説は地球と月はかつて1つの惑星だったという説です。それらの説は巨大な惑星が地球と衝突し、巨大な破片が砕け落ち、あちこち飛び回る原因となっています。その砕け落ちた破片の1つが月であり、残された穴にゆっくりと水が満たされそれが太平洋となりました。

今日 役立てられるあらゆる技術を駆使し、人類は絶えず月に関する新しい情報を発見しています。多くの人々が発見することによって、わたしたちが知っていることはいかに少しであるかということに気がきます。わたしとしては、あまり知りたくないと思っています。わたしはむしろ人々が何千年もの間抱いていた同じ驚きと好奇心を持って空をじっと見つめていたいと思います。